

令和3年度農産園芸研究課 課題一覧表

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(水稲・大豆) 主要農作物優良種子生産管理事業	水稲, 大豆奨励品種の原種・原原種の供給と奨励品種決定のための品種選定試験及び有望品種の栽培法を検討する。	H10～	作物
(水稲) 植物調節剤の適用性試験	水稲の新除草剤・生育調整剤について, 農薬登録のため効果と薬害を検定するとともに本県における雑草防除指針の策定に資する。	S39～	作物
(水稲) 「とくしま米」ブランドの確立を加速する 高品質化技術の開発と新品種育成	薬培養技術を用い, 主食用・醸造用オリジナル品種の育成を行う。 また, 「あきさかり」の省力的で安定した良品質米生産技術を確立する。	R3 ～ R5	作物
(藍) タデ藍新加工法と新品種による青色色素の生産性向上	タデ藍の高色素栽培方法を確立するとともに, 高色素品種の育成を行う。 また, 収穫後のタデ藍からの効率的な色素原料の製造方法(沈殿藍製造方法)に必要な抽出温度と抽出時間の影響を明らかにする。	R2 ～ R4	作物
(県育成品種等) 遺伝資源の保存	雑穀, 藍, 野菜, 花き, 山菜等の遺伝資源を維持保存する。また, 県の育成品種を保存栽培する。	H25～	作物 野菜・花き スマート農業

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(イチゴ) 着色良く大果で年内収量が多いイチゴと多様なニーズを呼び込む「彩るイチゴ」の育成	着色が良く、大果で年内収量の多いイチゴの育成を行う。 一方で、多様なニーズを呼び込む特徴がある多様な果色を持つイチゴの育成を行う。	R2 ～ R4	野菜・花き スマート農業
(トマト) 未熟葉摘葉処理によるトマトの増収技術の開発	生産者がスムーズに取り組みやすい技術としての未熟葉の摘葉処理について、さらに知見を深めることで、未熟葉の摘葉処理を核とした生育を制御することによる増収技術を開発する。	R3 ～ R5	野菜・花き
(トマト) 施設野菜の生育収量予測APIにおける多品種対応技術の開発	全国の施設生産者における生育収量予測技術を活用した高収益生産体系の確立を目的とし、本県ではトマトを対象とした、複数品種の生育モデル係数の取得・モデル検証を行う。	R3 ～ R4	野菜・花き
(サツマイモ) なると金時ブランド力拡大品種の育成	消費者ニーズに対応した食味(粘質系で甘い)を持ち、砂地畑に適応し、さらに立枯病抵抗性も評価した品種を育成し、なると金時ブランド力を拡大する新品種の育成を行う。また新たなニーズ開拓に向けて、多様な特徴(紫、カロテン、個食向き等)を備えた育種素材の開発をする。	R2 ～ R4	野菜・花き
(サツマイモ) DNAマーカーを利用したサツマイモ立枯病抵抗性品種の育成技術の確立	立枯病等の防除に利用されるクロルピクリンの使用量を削減するため、ゲノムワイド関連解析(GWAS)による立枯病抵抗性に関わる遺伝領域(QTL領域)の特定を行い、DNAマーカーを利用した抵抗性品種の育成技術を確立する。	R4 ～ R6	野菜・花き
(ミシマサイコ) ミシマサイコ(2年栽培)の栽培体系・経営モデルの確立	花数が最大となる摘芯方法等を検討し、最終採種量が最大となる手法を明らかにする。既存の栽培品目との組み合わせによるシミュレーションを行い、収益性の高い複合経営モデルを作成する。	R3 ～ R5	野菜・花き

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(イチゴ) イチゴ新品種「阿波ほうべに」の増収技術の検討	新品種「阿波ほうべに」は「さちのか」よりも大果で年内収量が多く、炭そ病抵抗性がある。一方、頂果での乱形果の発生が問題となっている。そこで育苗方法や摘果方法を検討し、収量の増加を図る。	R2 ～ R4	スマート農業
(イチゴ、ミニトマト) 果菜類における送風受粉ロボット運用マニュアルの策定	ハチ等の媒介昆虫に代わる、イチゴ送風受粉ロボットの受粉効果向上を図り、合わせて運用マニュアルを策定する。また、ミニトマトへの利用拡大を図る。	R4 ～ R6	スマート農業 野菜・花き
(ブロッコリー) ビッグデータを活用したブロッコリー生育予測・品質向上技術の開発	気象、生育データを活用し、地域・作型別生育予測技術を確立する。そして、県内出荷時期・量の予測マップを作成し、販売戦略に役立てる。また、花蕾生理障害の発生予測技術と回避技術等を開発し、品質・収量の向上を実現する。	R2 ～ R4	スマート農業
(レンコン) レンコン腐敗症の発生要因の究明による対応策の適正化	レンコンにおける腐敗症状の原因は、病害と生理障害が混在している。その見分け方が明らかになっていないため、現場では適切な対応策をとることができない。そこで、腐敗症状の原因別の見分け方を明らかにし、原因別対策技術を確立する。	R2 ～ R4	スマート農業
(サツマイモ) 青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立	サツマイモ挿苗機の改良と育苗方法開発による、青果用かんしょの機械移植栽培体系を確立し、実証する。これらにより、育苗から移植までの労働時間を慣行栽培と比較して20～30%削減する。	H30 ～ R4	スマート農業
(シンビジウム) ICTを活用したシンビジウムの生産性向上技術の開発	シンビジウムの病害予防や最適な灌水管理技術の確立、屋根散水技術を用いた暑熱対策を行い、最適な栽培環境を明確にする。そして、生産者間のデータ共有を図り、産地の技術レベルアップにつなげ、生産性を向上させる。	R4 ～ R6	スマート農業
(シンビジウム) 生産性革命に寄与するシンビジウム生産におけるスマート農業の推進	シンビジウム生産に、ICT環境モニタリング技術を活用し、環境データの見える化と生育に最適なハウス内環境を実現し、生産性向上を実現する。	R2 ～ R4	スマート農業 野菜・花き

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(果樹全般) AIを用いた画像による栽培管理支援システムの開発	ウェアラブル端末を利用して画像から初心者が摘果や植物調整剤の処理適期の判断が可能となるシステムを開発し、初心者でも適正に管理できるシステムの開発を目指す。	R3 ～ R5	果樹
(スダチ) 極早期加温ハウススダチにおける花芽分化条件の解明	近年、温暖化による極早期加温ハウススダチの着花不良が問題視されている。そこで、スダチの花芽分化条件を明らかにするとともに、花芽誘導を司るCiFT遺伝子の発現量に基づく迅速な新規着花予測法を開発する。	R3 ～ R5	果樹
(スダチ) 新品種「勝浦1号」による徳島スダチ産地の強化	果皮の緑色が濃く、退色が遅いスダチ新品種「勝浦1号」の特性を最大限に活用するため、簡易で省力的な貯蔵技術を確立する。	R4 ～ R6	果樹
(中晩柑) カンキツ新品種「上板29号」品種登録に向けて	ポストハッサクとして育成中の糖度が高く良食味な中晩柑「上板29号」の現地適応性試験を実施し、県央部や県西部のカンキツ産地への導入の可能性を検討するとともに品種登録出願のための特性データを蓄積する。	R4 ～ R6	果樹
(マンゴー、フィンガーライム) トロピカルフルーツ安定生産に向けた栽培技術の開発	温暖化の進行に伴う環境下において、果樹の生産性向上と高付加価値化を実現するため、マンゴー、フィンガーライム等の熱帯果樹について本県での栽培適性を検討するとともに、低コストかつ安定生産が可能な栽培技術の開発に取り組む。	R4 ～ R6	果樹
(なし) ナシ新品種によるブランド力の向上	「幸水」、「豊水」と重ならない時期に収穫できる高品質な新品種を育成し、なし生産者の収益性を向上させるとともに、多品種化による労力分散を行い、ブランド産地の維持を図る。	R4 ～ R6	果樹
(ブドウ) ブドウ「シャインマスカット」の最適管理法の解明	栽培面積が急増しているブドウ「シャインマスカット」について、最適な房作り手法を深層学習や機械学習などのビッグデータ解析手法を用い明らかにし、効率的に高品質果実を生産する方法を明らかにする。	R2 ～ R4	果樹
(果樹全般) DNAマーカーを用いた果樹育種の効率化	果樹類の品種開発においては、迅速化技術となるDNAマーカーを導入し、多くの個体の中から有望形質を持つ個体を芽生え段階で選抜することで、果樹育種の効率化を図る。	R4 ～ R6	果樹
(果樹全般) 本県に適応する果樹品種の比較試験(系統適応性比較)	(独)農研機構果樹研究所が育成した品種の系統適応性試験を実施する。	S39～	果樹